

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-18

ろくじみょうごうひ
六字名号碑



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	大師地区	シーズン	通年
	大師周辺	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師町4-48
問い合わせ	川崎大師平間寺
TEL	044-266-3420
FAX	044-277-8163
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/88/88bunka/home/top/ (川崎市文化財案内)
交通	京急大師線川崎大師駅より徒歩8分



基礎情報

- 川崎大師平間寺の境内に建てられた名号塔。阿弥陀如来への信仰を表す「南無阿弥陀仏」の六字が陰刻されている。大本堂隣の中書院の庭にあり、平間寺境内で最も古い碑である。
- 川崎市の重要郷土資料に指定されている。

由来・エピソード

- 寛永5年(1628)に建立。塔身部の年号と台座の干支戊午が一致していないが、後に観心徹範なる僧によって台座が添えられたためと考えられている。
- 建立者については、次のような話が伝えられている。「信仰の篤い江戸の商人・紀伊国屋作内は、ある夜お大師様の夢を見る。翌日、作内は大師参詣からの帰り道に一本の筆を拾った。そして帰宅後にその筆を使ってみると、字の書けなかった作内が、その筆で六字の名号をすらすらと書くことができた。歓喜した作内は、これを石碑に彫って境内に建立した。」この話は、弘法大師が書の達人であることと阿弥陀信仰とが結びついてできた靈験譚であると考えられている。
- 石塔建立日と伝えられる3月21日は、弘法大師の命日とされる御影供にあたる。夢をみた日も正月2日の初夢の日になっている。宗派にとらわれない近世初期の大師信仰をうかがうことができる。

補足・その他

- 文化6年(1809)に大師を訪れた太田南畝は、著書『調布日記』に、「大師河原平間寺にいたる。去年の師走17日と26日詣でしなり。42の歳の厄とやらんいふものを除かんとて、必ず人の詣で来る所なるを、去年60にして初めて詣で、今日まで三度来れるもおかし。」と記し、つづいて境内の六字名号塔を拝し、その銘文を書きとっている。
- 境内には六字名号碑と弘法大師への道(道標)のほか、宝暦6年(1756)御三卿の一つ田安家によって奉納された宝篋印塔(ほうきょういんとう)や、天保10年(1839)川崎宿と大師門前を結ぶ大師道の道普請完成記念碑など、興味深い多くの石造物がある。

関連シート

- (10-17)川崎大師平間寺
- (10-19)弘法大師への道(道標)
- (29-1)市指定文化財